

令和5年度 第2回
沼津市水道事業及び下水道事業経営審議会
会議録

と き：令和5年6月29日（木）

ところ：市役所本庁舎 8階会議室

事務局からの説明後、次のような質疑・応答等がありました。

	(水道事業について)
委員	事務局の説明を伺い、料金の改定はやむを得ないと思いますが、どの程度の値上げが必要になるのか、また、いつ頃改定をする予定かを伺いたと思います。
事務局	<p>値上げ額については、この後、前回(水道:H22年、下水道:H31年)の改定時の概要を説明させていただき、次回の審議会で、どの程度の値上げ額になるかを示したいと考えています。</p> <p>改定時期については、令和5年度は赤字予算を編成している状況のため、できるだけ早く、令和6年度には改定できればと考えています。</p>
委員	<p>委員の中に詳しい方がおりますので伺いたいのですが、水道料金は8%の軽減税率かと思いますが、軽減税率適用以外のものにも水は使われるので10%なのでしょうか。仮に10%であっても地方税の2.2%を引いた7.8%で計算すれば良いのかということをお願いしたい。</p> <p>また、貸借対照表も作成しているのであれば、減価償却費が増えていくと、資産の構築物が増えていっているため、結局はマイナスになっていないのではないかとということについてです。企業会計上は課税対象の事業ですと減価償却費を出さなければなりません、実際、減価償却費はどこにも払っておらず内部留保になっているので、留保金として見ても良いのではないかとと思いますが、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>消費税について、水道事業会計については把握していませんが、通常考えると飲料水ということではなく、通常使用する水のため10%です。</p> <p>貸借対照表については、建物、構築物の資産の減少は減価償却がありますが、その部分は減価していきます。当然資産も減っていくため、内部留保にまわるとということではありません。減価償却をすることにより、資産と企業債の借入がイコールであれば内部留保はなくても良いのですが、企業債が多くなれば、結局赤字になります。借入れが大きくなるため、そこを調節するのが内部留保です。</p> <p>企業債の返済は一律ではないので申し上げにくいのですが、管路の設備の耐用年数が仮に30年、借入も30年で同じように返済をしていけばきれいになります。現状、管路はそのままですが、それに対する維持費や改修の費用の方がかかってくるとどうしても企業債が多くなる傾向にあります。先ほどのようにいくと企業債が増えていき、新しい管路の設備投資と改修の設備投資が重なってくると借入が増えていきます。また、収入の減少、減価償却費が上がるため、先々の見通しが苦しくなってきます。収入でそれを補えれば良いのですが、補えずどうしてもそのような傾向にあります。</p> <p>下水道についてはもっと厳しい状況になってくると考えています。</p>
事務局	消費税について、水道水は飲み水以外にも使用するため10%。費用について、薬品費等一部は8%ですが、工事等については10%です。
委員	その場合、地方消費税を控除しなくて良いのでしょうか。地方消費税は還元されてくるわけではないのでしょうか。計算上の話ですが、その分を水道事業の収入に計上すれば良いのではないのでしょうか。
委員	消費税は、一度全て国に納めたものを、国と地方に分配するもので、還元されてくるということとは別の話です。どのような仕組みになっているか私は把握していません。

事務局	<p>ん。</p> <p>還元ということについて説明しますと、国から県を通じて配分され、沼津市の一般会計に税外収入の地方消費税交付金として交付されてきます。</p> <p>本市の水道料金は消費税込みであり、平成22年から料金を改定していないため、税率が上がった分、消費税額の持ち出しが増えています。</p>
委員	<p>減価償却との兼ね合いで質問しますが、一般的な耐用年数は30年という説明でしたが、水道施設の耐用年数はどのくらいでしょうか。また、その整備はどの程度進んでいるのでしょうか。</p>
事務局	<p>水道施設の法定耐用年数は、管路で40年とされており、設備機器については対象機器にもよりますが、沼津市では25年と位置付けています。</p> <p>管路での整備としては、全体延長1,077kmのうち、やらなければならない管路として約280kmあります。このうち漏水の多い管路は約167kmです。</p> <p>これまで、年間12～13km程度の更新を進めてきましたが、今後も引き続き継続していく必要があります。</p>
委員	<p>給水収益が年々減少していますが、主な要因は人口減少だけでしょうか。給水収益が減少していくことが確実ならば、料金改定は考えていかなければならないと感じます。</p>
事務局	<p>人口減少や、洗濯機やトイレなど節水機能に優れているものが普及しています。加えて、限られた資源の中で節水していこうという意識が市民の中で高まっています。これらが作用しあって年々減少していると考えています。</p>
委員	<p>水道の口径が20mmとして資料に記載されていますが、口径13mmと、口径20mmとではどちらが一般的に多いのでしょうか。また、それぞれどのような割合ですか？</p>
事務局	<p>一般の住宅は20mmと考えていただければと思います。ワンルームの集合住宅等、それぞれの部屋で使う分については13mmです。</p> <p>令和3年度のデータでは、水量の割合は20mmが全体の45.4%、13mmは全体の28.9%です。</p> <p>(下水道事業について)</p>
委員	<p>企業債残高が減っていますが、令和5年度以降は新たな借り入れをする計画がないということでしょうか。</p>
事務局	<p>下水道事業については、引き続き施設整備にあわせて企業債を借り入れていく予定ですが、借り入れと同時に、過年度に借り入れた分の償還も行っています。借入額に対し、償還額が大きいため、企業債残高が減少していきます。</p>
委員	<p>他の市町に比べて普及率は高いのでしょうか。自宅前に下水道が整備されているにもかかわらず、接続していない方が他の市町と比べて多いのかを伺いたと思います。</p>

事務局	<p>下水道供用開始区域のうち、下水道につないでいる方の割合を接続率(水洗化率)と言います。本市は令和3年度末 87.6%で、県内市町の中では中間位です。令和4年度末はもう少し率が上がっています。</p> <p>これに対し、全体の人口と、下水道供用開始区域内の人口との割合を示したものが人口普及率です。本市は、令和4年度末で 62.4%です。昨年度数値での比較ですが、全国と比べて本市の人口普及率は少し低い状況です。</p>
委員	<p>地質的なこともあると思いますが、沼津市の下水道は不明水の割合が大きいと思います。是非減らしていただきたいと思いますが、見通しとしてはいかがでしょうか。改善できると良いと思いますが、どの程度減らしていくことができるか見通しはありますか。</p>
事務局	<p>不明水に関して、下水道管の中を調査し、その調査の結果、判明したところは止水工事を行っています。ただし、中部処理区という合流地域があり、雨水が入ってくることを防ぐことができません。分流地域、他の地域に関しては、定点カメラなどを入れ、不明水の箇所を発見次第、随時工事を行っています。</p>
委員	<p>今後の対応等について、広域連携を「検討」ではなく推進し、今後、中核的な都市である沼津市がリードしてほしいと思いますが、上水道含め、何か考えはありますか。</p>
事務局	<p>広域連携は上下水道とも、今検討が始まったばかりです。他市町との連携は、メリットとデメリットがあり、広域化することで市民サービスが低下することもあります。まずはソフト事業を中心に経費削減を図れるところは連携していきたいと思います。</p> <p>水道事業については、県や周辺市町と検討を始めています。短期的ではなく、長期的な視点で沼津市としてのメリットを考えながら対策に取り組んでいきたいと考えています。</p>
委員	<p>先程、減価償却の話をしました。資料によると単年度でかかっている減価償却費と同程度の金額が設備費としてかかっています。資料に記載されているシミュレーションどおり、毎年費用がかかっているということで良いでしょうか。</p>
事務局	<p>経費削減策として、広域連携を含めて様々な取組を行っていきませんが、事業経営を行う上で、今後も安定的に給水や汚水処理等を行うためには、一定の費用がかかり、今後のシミュレーションも、それらを見込んで試算しています。</p> <p>(今後の対応等についての意見)</p>
委員	<p>将来にわたり、持続的に上下水道を運営していくためには、料金改定を進めることが適切ではないかと考えます。</p>
委員	<p>私も同意見です。経費削減策の説明がありましたが、黒字をあげるための対策にはならないと思います。料金を上げないと生活に大きな支障が出てしまうと思います。</p>
委員	<p>水道料金の値上げを前提に話しが進んでいますが、値上げをする前に、経費削減を議論しなければいけないと感じます。経費削減、収益増加を行う計画があるのであれば示してほしいと思います。</p>

委員	<p>経営者の目線で見ても、これだけ厳しい数字であるなら値上げは仕方がないと思います。沼津市は戸田地区まであり、面積が広いので地形的な条件も異なりますが、値上げについては、周辺市町の状況等も考慮しながら行っていく必要があると思います。</p>
委員	<p>値上げをしてほしくありませんが、やむを得ない状況だと思えます。しかし、もう少し早く値上げし、金額の上げ幅が少ない時期に改定できなかったのかとは感じます。一番の要因として電気代の高騰がありますし、この時期の値上げを考えるしかないと思えます。</p>
委員	<p>厳しい視点で見てきましたが、説明を受けて、今後も経営的に厳しいことが分かりました。今のままいけば経営破綻してしまうので、値上げはやむを得ないと思えます。市民への周知をしっかりと行いながら、対応してほしいと思えます。</p>
委員	<p>施設整備にお金がかかることが分かりました。災害にあったときのことを考えると、水は命に直結するため、水道においては上げざるを得ないと思えます。下水道はより検討する必要があると思えます。基本料金と従量料金を精査していく必要があると思えますが、値上げせざるを得ないと考えます。</p>
委員	<p>人口減少により収益が減り、また電気代の高騰で収支が赤字になることが分かりました。平成 22 年の料金そのまま来ましたが、消費税が上がった時、何らかの理由があったとは思いますが、その時に上げておけばよかったのではないかと感じます。施設の耐震化等は大切ですので、まずは安全に水道を利用するためには値上げはやむを得ないと考えました。</p>
委員	<p>水は生命に直結しているため、努力しても厳しいのであれば、値上げは仕方ないと思えます。下水道は少しでも接続を増やし、料金を抑えることに努めてほしいと思えます。</p>
委員	<p>沼津の地場産業の干物作りが日本一である理由は水が良いからです。上水道、下水道が経営破綻したら困ります。損益分岐点がどこにあるのか気になりますが、継続して事業ができるようにして欲しいと思えます。値上げはせざるを得ないと思えます。賛成というよりは仕方ないと思えます。</p>
会長	<p>本日3名の委員が欠席していますが、欠席の方から意見などはありましたか。</p>
事務局	<p>皆さんの意見と同様になりますが、「今後も施設等を計画的に更新していかなければならないと思う」、「将来にわたり、安心して上下水道を使用していくためには改定が好ましいと思う」、「市民への周知が大変重要ではないか」、「前回改定は、どのような形で決めたのか」などの意見がありました。</p>
会長	<p>皆さんから、料金改定は、やむを得ないという意見と、経費節減や市民等への周知を徹底しつつ、改定のあり方等について、もう少し検討した方が良いのではないかと意見がありました。さらに何か意見があればお願いします。</p>
委員	<p>調べたところ、近隣都市の令和3年度の支出構成割合は、沼津市に比べ、委託料が高く、人件費が低いため、外部委託を多くし、経費削減を図っているのだと思えます。一例ですが、深夜電力を利用するなど経費削減策はいろいろと方法があると思えます。</p>

会長	<p>現状、経費節減と一口に言っても難しいと思います。他都市との比較においても施設や設備の規模が違ふと思われまふ。</p> <p>市長から諮問を受け、料金を5年に一度検討することになっており、ちょうど上下水道とも節目の時期に来ています。私は、経費削減策も配慮した上で、料金改定の方角で検討を進めたいと思いますが、もう少し検討が必要との意見もありましたが、具体的に何か意見があれば伺いたたいと思います。</p>
委員	<p>経費削減の計画があれば聞きたいということですが、料金値上げも必要かと思いません。</p>
会長	<p>今回、上水道・下水道の両方を料金改定する方角で、今後審議を進めていきたいと思ひます。また、改定時期についても検討していかなければなりません。次回の審議会の議題は、これらも含めて進めさせていただきたいと思ひます。</p> <p>(前回の料金改定についての意見) 《委員の意見を受けて事務局から追加説明》</p>
委員	<p>下水道の基本料金と従量料金について、使えば使うほど値上げ率が高くなるのか、使わない方が安くなるのか。水をたくさん使う企業はどうか。基本料金と従量料金のどちらを高くするのか、平均的に上げるのか。今後提示してほしいと思ひます。</p>
事務局	<p>基本料金と従量料金の割合は、原則、総括原価方式の中で需要家費や固定費、変動費により決まります。これに加え、各市町では、地形や、施設の整備状況、都市の規模等を考慮した上で料金を設定していると思ひます。</p> <p>本市は、本来の方式に当てはめると基本料金は高くなりますが、これまでの経緯もあるため、現在はこのような形となっています。今後、意見を伺いながら検討したいと思ひます。</p>
委員	<p>基本料金は全体からもらうもので、企業等たくさん使う人は従量料金が高ければ負担が多くなるということが良いでしょうか。前回、上水道は基本料金を据え置いたので、今回は据え置きでない方が良いと思ひます。</p>
委員	<p>固定費は使っても使わなくてもかかるため、今回基本料金を上げた方が良いと思ひます。従量料金を上げすぎると大口利用者の方が井水を使い、上水道を使ってもえなくなってしまう。</p>
事務局	<p>今の事務局案では、基本料金は、前回据え置いているため、今回は引き上げたいと考えています。</p>
会長	<p>前は一般家庭の負担にならないように基本料金を据え置いたかと思ひます。今回料金改定をする際にそういうことも含めて考えていきたいと思ひます。</p>
委員	<p>今回の改定も前回と同じ考え方で行ったらどうかという提案でしょうか。2つ目の案を採用するということでしょうか。</p>
事務局	<p>まずは前回の改定をどのように行っただかを説明させていただきました。1つ目は、経営していく上で、最低限値上げしたい額を示したパターン。</p>

	<p>3つ目は、企業債残高を今後上昇させない理想のパターン。 2つ目は、その中間のパターンです。 下水道も同様です。事務局としては3つの案を基本に考えています。 次回、2つ目の案も示す予定ですが、一つの案です。</p>
委員	<p>料金を上げると使用水量が減るのではないかと思うのですがいかがでしょうか。</p>
委員	<p>主婦としては、改定直後は使用水量について気になりますが、時間が経つと考えなくなると思います。</p>
委員	<p>沼津市は水が豊富ですが、市外には危機的に雨が降らない地域や、水が枯れるような地域もあります。水を無駄にしないという考えもありますが、沼津市は節水しなくても大丈夫な面もあると思います。</p>
会長	<p>次回は、具体的な適正料金を含めて、検討していきたいと思います。 以上で、今日の会議を閉めたいと思います。</p>